



40	39	38	37	36	35	34	33	32	31	番号 ばんごう	上の句 うえのく	下の句 したのく	作者 さくしゃ
忍ぶれど色に出でにけりわが恋は	浅茅生の小野の篠原忍ぶれど	忘らるる身をば思はず誓ひてし	白露に風の吹きしく秋の野は	夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを	人はいさ心も知らずふるさとは	誰をかも知る人にせむ高砂の	ひさかたの光のどけき春日の日に	山川に風のかけたるしがらみは	朝ぼらけ有明の月と見るまでに	番号	上の句	よしののきとにふれるしらゆき	坂上是則
しのぶれどいろにいでにけりわがこいは	あさじうのおののしのはらしのぶれど	わすらるるみをばおもわずちかいてし	しらつゆにかぜのふきしくあきののは	なつのよはまだよいながらあけぬるを	ひとはいさこころもしらずふるさとは	たれをかもしるひとにせんたかさごの	ひさかたのひかりのどけきはるのひに	やまがわにかぜのかけたるしがらみは	あさぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	ながれもあえぬもみじなりけり	はるみちのつらき
忍ぶれど色に出でにけりわが恋は	浅茅生の小野の篠原忍ぶれど	忘らるる身をば思はず誓ひてし	白露に風の吹きしく秋の野は	夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを	人はいさ心も知らずふるさとは	誰をかも知る人にせむ高砂の	ひさかたの光のどけき春日の日に	山川に風のかけたるしがらみは	朝ぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	しづこころなくはなのちるらん	春道列樹
しのぶれどいろにいでにけりわがこいは	あさじうのおののしのはらしのぶれど	わすらるるみをばおもわずちかいてし	しらつゆにかぜのふきしくあきののは	なつのよはまだよいながらあけぬるを	ひとはいさこころもしらずふるさとは	たれをかもしるひとにせんたかさごの	ひさかたのひかりのどけきはるのひに	やまがわにかぜのかけたるしがらみは	あさぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	しづこころなく花の散るらむ	紀友則
忍ぶれど色に出でにけりわが恋は	浅茅生の小野の篠原忍ぶれど	忘らるる身をば思はず誓ひてし	白露に風の吹きしく秋の野は	夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを	人はいさ心も知らずふるさとは	誰をかも知る人にせむ高砂の	ひさかたの光のどけき春日の日に	山川に風のかけたるしがらみは	朝ぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	まつもむかしのともならなくに	ふじわらのおきかぜ
しのぶれどいろにいでにけりわがこいは	あさじうのおののしのはらしのぶれど	わすらるるみをばおもわずちかいてし	しらつゆにかぜのふきしくあきののは	なつのよはまだよいながらあけぬるを	ひとはいさこころもしらずふるさとは	たれをかもしるひとにせんたかさごの	ひさかたのひかりのどけきはるのひに	やまがわにかぜのかけたるしがらみは	あさぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	はなぞむかしのかにおいける	藤原興風
忍ぶれど色に出でにけりわが恋は	浅茅生の小野の篠原忍ぶれど	忘らるる身をば思はず誓ひてし	白露に風の吹きしく秋の野は	夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを	人はいさ心も知らずふるさとは	誰をかも知る人にせむ高砂の	ひさかたの光のどけき春日の日に	山川に風のかけたるしがらみは	朝ぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	花ぞ昔の香ににほひける	きものつらゆき
しのぶれどいろにいでにけりわがこいは	あさじうのおののしのはらしのぶれど	わすらるるみをばおもわずちかいてし	しらつゆにかぜのふきしくあきののは	なつのよはまだよいながらあけぬるを	ひとはいさこころもしらずふるさとは	たれをかもしるひとにせんたかさごの	ひさかたのひかりのどけきはるのひに	やまがわにかぜのかけたるしがらみは	あさぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	くものいずこにつきやどるらん	紀貫之
忍ぶれど色に出でにけりわが恋は	浅茅生の小野の篠原忍ぶれど	忘らるる身をば思はず誓ひてし	白露に風の吹きしく秋の野は	夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを	人はいさ心も知らずふるさとは	誰をかも知る人にせむ高砂の	ひさかたの光のどけき春日の日に	山川に風のかけたるしがらみは	朝ぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	雲のいづこに月宿るらむ	きよはらのふかやぶ
しのぶれどいろにいでにけりわがこいは	あさじうのおののしのはらしのぶれど	わすらるるみをばおもわずちかいてし	しらつゆにかぜのふきしくあきののは	なつのよはまだよいながらあけぬるを	ひとはいさこころもしらずふるさとは	たれをかもしるひとにせんたかさごの	ひさかたのひかりのどけきはるのひに	やまがわにかぜのかけたるしがらみは	あさぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	つらぬきとめぬたまぞちりける	清原深養父
忍ぶれど色に出でにけりわが恋は	浅茅生の小野の篠原忍ぶれど	忘らるる身をば思はず誓ひてし	白露に風の吹きしく秋の野は	夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを	人はいさ心も知らずふるさとは	誰をかも知る人にせむ高砂の	ひさかたの光のどけき春日の日に	山川に風のかけたるしがらみは	朝ぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	つらぬきとめぬ玉ぞ散りける	ふんやのあさやす
しのぶれどいろにいでにけりわがこいは	あさじうのおののしのはらしのぶれど	わすらるるみをばおもわずちかいてし	しらつゆにかぜのふきしくあきののは	なつのよはまだよいながらあけぬるを	ひとはいさこころもしらずふるさとは	たれをかもしるひとにせんたかさごの	ひさかたのひかりのどけきはるのひに	やまがわにかぜのかけたるしがらみは	あさぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	ひとのいのちのおしくもあるかな	文屋朝康
忍ぶれど色に出でにけりわが恋は	浅茅生の小野の篠原忍ぶれど	忘らるる身をば思はず誓ひてし	白露に風の吹きしく秋の野は	夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを	人はいさ心も知らずふるさとは	誰をかも知る人にせむ高砂の	ひさかたの光のどけき春日の日に	山川に風のかけたるしがらみは	朝ぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	人の命の惜しくもあるかな	うこん
しのぶれどいろにいでにけりわがこいは	あさじうのおののしのはらしのぶれど	わすらるるみをばおもわずちかいてし	しらつゆにかぜのふきしくあきののは	なつのよはまだよいながらあけぬるを	ひとはいさこころもしらずふるさとは	たれをかもしるひとにせんたかさごの	ひさかたのひかりのどけきはるのひに	やまがわにかぜのかけたるしがらみは	あさぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	あまりてなどかひとのこいしき	右近
忍ぶれど色に出でにけりわが恋は	浅茅生の小野の篠原忍ぶれど	忘らるる身をば思はず誓ひてし	白露に風の吹きしく秋の野は	夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを	人はいさ心も知らずふるさとは	誰をかも知る人にせむ高砂の	ひさかたの光のどけき春日の日に	山川に風のかけたるしがらみは	朝ぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	あまりてなどか人の恋しき	参議等
しのぶれどいろにいでにけりわがこいは	あさじうのおののしのはらしのぶれど	わすらるるみをばおもわずちかいてし	しらつゆにかぜのふきしくあきののは	なつのよはまだよいながらあけぬるを	ひとはいさこころもしらずふるさとは	たれをかもしるひとにせんたかさごの	ひさかたのひかりのどけきはるのひに	やまがわにかぜのかけたるしがらみは	あさぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	ものやおもうとひとのとうまで	さんぎひとし
忍ぶれど色に出でにけりわが恋は	浅茅生の小野の篠原忍ぶれど	忘らるる身をば思はず誓ひてし	白露に風の吹きしく秋の野は	夏の夜はまだ宵ながら明けぬるを	人はいさ心も知らずふるさとは	誰をかも知る人にせむ高砂の	ひさかたの光のどけき春日の日に	山川に風のかけたるしがらみは	朝ぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	物や思ふと人の問ふまで	参議等
しのぶれどいろにいでにけりわがこいは	あさじうのおののしのはらしのぶれど	わすらるるみをばおもわずちかいてし	しらつゆにかぜのふきしくあきののは	なつのよはまだよいながらあけぬるを	ひとはいさこころもしらずふるさとは	たれをかもしるひとにせんたかさごの	ひさかたのひかりのどけきはるのひに	やまがわにかぜのかけたるしがらみは	あさぼらけ有明の月と見るまでに	番号	下の句	平兼盛	たいらのかねもり